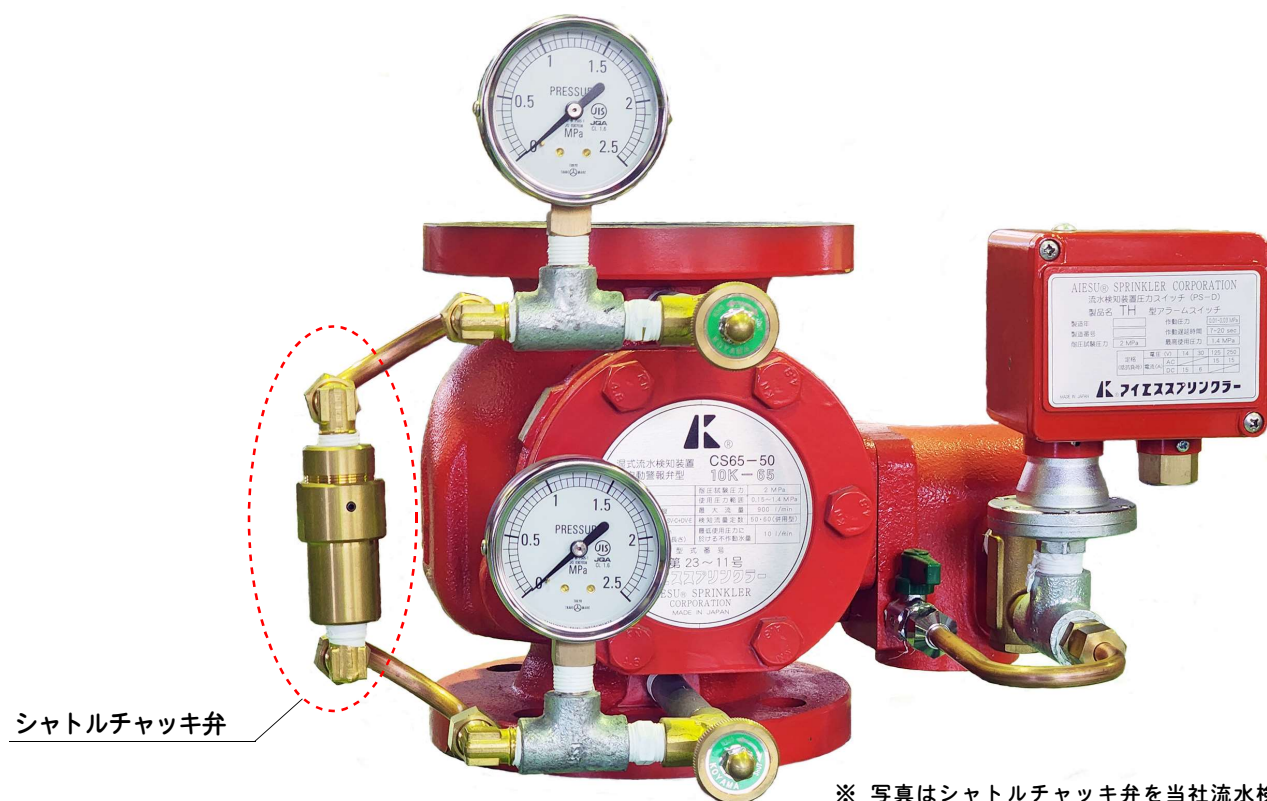


流水検知装置 2次側昇圧防止装置

シャトルチャッキ弁



※ 写真はシャトルチャッキ弁を当社流水検知装置 CS65-50に取り付けたものです。

流水検知装置の性能に影響がない！

既設の流水検知装置にも設置可能！

特 徴

- ① 流水検知装置 2次側の圧力が上昇した場合 1次側へ圧力を逃がし、2次側圧力の異常上昇を防ぎます。
- ② 1次側の排水や他系統のヘッドの作動により 1次側圧力が低下した場合、シャトルチャッキが働き、2次側の圧力は低下にせず保持されます。
- ③ 2次側から 1次側へ圧力を逃がす時以外は、1次側と 2次側は完全に縁切りされているため流水検知装置本来の性能に影響がありません。
- ④ 圧力計取出口へ接続を行うことにより、既設の流水検知装置にも容易に設置することができます。
- ⑤ 接続管に U字管を用いているため、1次側・2次側の圧力計取出口の距離の調整が可能であり個別の流水検知装置に対応できます。

※ 設置の際は必ず所轄消防署へご相談ください。

 AIESU® SPRINKLER CORPORATION
アイエスアリンクラ株式会社

お問合せ Tel 090-5258-6595 担当 久保 慶晃

流水検知装置2次側昇圧防止装置・シャトルチャッキ弁

シャトルチャッキ弁の機能説明 （※ ”2次側圧力 － 1次側圧力＝差圧”としています。）

1 差圧0.0MPa以下の時(下左図)

一次側から、二次側への逆止弁として働いています。

※ 従いまして、シャトルチャッキ弁によりバイパスされる流水検知装置の作動性能には、影響がありません。

2 差圧0.06MPaの時(下中央図)

気温上昇等の環境の変化により、二次側配管内の圧力が緩やかに上昇した場合、弁体(ピストン)が徐々に下降を始め弁体(ピストン)のOリング部分が圧力調整部に達すると、圧力が高くなった二次側から一次側に水が流れることで、二次側圧力と一次側圧力との差圧を維持します。

・ 維持される差圧は、差圧設定値である 0.06 ± 0.02 MPaになります。

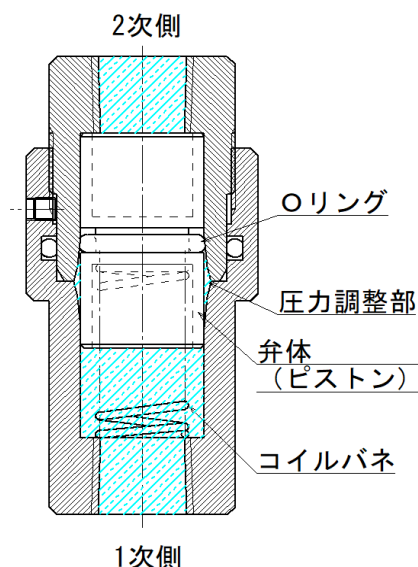
3 差圧0.1MPa以上の時(下右図)

一次側の排水や他系統でのSPヘッドの作動等により、一次側配管内の圧力が下がる場合には、シャトルチャッキ弁を通過する水量が毎分1L以上の流量となるため、弁体(ピストン)のOリング部分は、瞬間的に圧力調整部を通過し、二次側から、一次側への逆止弁に切り替わりま

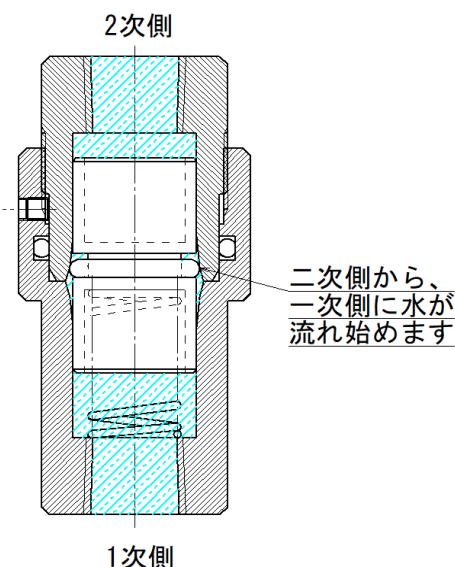
す。
この時、二次側から一次側に、シャトルチャッキ弁を通過する水量は、30cc以下であり、仮に一次側の圧力がゼロまで下がった場合でも、二次側の圧力は、元の圧力が維持されます。

※ 従いまして、シャトルチャッキ弁によりバイパスされる流水検知装置の逆止弁機能には、影響がありません。

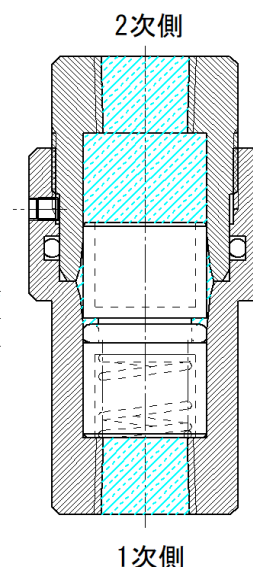
1 差圧0.0MPa以下の時



2 差圧0.06MPaの時



3 差圧0.1MPa以上の時



商 品 名	シャトルチャッキ弁
寸 法 (mm)	φ 30 (φ 24) × 60
質 量	192 g
取付ネジ	Rc1/4 (一、二次側とも)
取付方向	縦横両用
使用圧力範囲	0.15 ～ 1.4 MPa
差圧設定値	0.06 ± 0.02 MPa
シャトルチャッキ弁 の 通過水量について	30cc/min 以下 シャトルチャッキ弁の通過水量とは、二次側から一次側への逆止弁として働くまでにシャトルチャッキ弁を通過する水量のことです。

※ 設置の際は必ず所轄消防署へご相談ください。